

1909
2010
6/1

府職の友

発行所/大阪府関係職員労働組合
〒540-0008 大阪市中央区大手前2-1-59
電話 06(6941)0351・内線3740
直通06(6941)3079 FAX06(6941)4541
Eメール info@fusyokuro.gr.jp
URL/http://www.fusyokuro.gr.jp
発行人/平井 賢治 編集人/小山 智美
(一部10円)組合員の購読料は組合費に含まれています。

青年自治研集会 in 静岡

6月12日(土)~13日(日)
住民のために働くということ、自治体・公務公共の仕事の意義などについてみんなで考えて学ぶ場です。



全国青年大集会

5月16日 in 東京

5月16日東京・明治公園にて、「ナットクできない派遣法改正! とりもどそう! 働くよろこび、生きる希望」をメインスローガンに全国青年大集会2010がありました。全国から5200人の青年が集まり、府職労からは、7名が参加しました。

とりもどそう!

働くよろこび、生きる希望

ナットクできない派遣法改正!

池田保健所 池田亜弥子さん
ディズニーランドに行けることに惹かれて、初めて組合のイベントに参加しましたが、大会がどのようなのか全くイメージができませんでした。前のステージで、派遣の雇い止めにあつた人や、アルバイトをしながら定時制の高校に通う高校生など、様々な境遇の人が演説をし、聞いている人達が、拍手で賛同している様子が印象的でした。

☆

藤井寺保健所 加藤佐織さん
全国青年大集会は若者たちの熱い思いではちきれそうでした。不当解雇や路上生活体験の演説あり、歌あり踊りあり派手なコスチュームのパフォーマンスありと賑やかなものでした。

デモ行進もロック音楽やDJ風の語りになったもので、街行く観光客が楽しそうに写真を撮ったりしていました。非正規雇用者が増えるなど生活が困難になっていく状況をこのパワーで吹き飛ばせたらなあと思いました。

☆

和泉保健所 浦田民恵さん
TVや新聞の中だった青年の路上生活やブラック会社の存在。仕事がない・切られて、のたれ死ぬかもしれない…、舞台上からの話に息をのみ続けました。でも、たどりついた先は、見知らぬ人がおにぎり握って応援してくれる、一人では挫折そうでも仲間がいる労働組合だった、と語る青年の笑顔の清々しさ。当たり前なことが壊されすぎている、行進ではそんな気持ちで皆と大阪弁でアピールしました。

急性期・総合医療センター 記虎由貴さん
新聞やニュースで報道されている雇用問題について今までは身近に考えることができませんでした。今回集会に参加している人々の話を聞く事ができ、一労働者として身近な問題であるという認識を持つきっかけとなりました。そして何千人という仲間がいることに驚き、とても心強いと思いました。初めての参加でしたがとても貴重な時間でした。

☆

池田保健所 山田麻記子さん
初めて青年集会に参加させていただきました。同世代の方の訴えは、どれも切実でつらいものですが、全国から集まった仲間のパワーはすごく、仕方ないとあきらめていた自分に少し元気をもらった気がします。とっても楽しい2日間でした。ありがとうございました。

☆

府職労書記 茂内梨香子さん
派遣で寮生活をしていた彼は、立ち話5分で解雇通告・寮立ち退きを言い渡されたとき、仕事なくなるよりも、住む場所がなくなるの方が不安だったと語りました。仕事と同時に住む家をなくす不安は「派遣だからしょうがない」と片付けられるのでしょうか。

「派遣で働くのが当たり前」から「正規で働くのが当たり前」の社会に戻すには、労働者派遣法の見直しが必要だと思いました。一緒に行ったメンバーとそんな思いを共有できてよかったです。

全体集会では、派遣切り、高学費の解決に向けての訴え、反貧困ネットワークの報告などがありました。職がなく学費滞納で定時制高校を退学寸前となった、建設労働者では一人親方・無保険など、非正規問題が恒常的にある「ブラック会社」に不当解雇された、夢に見たパティシエの仕事が過酷で1ヵ月で体をこわした、など切実なものばかり。路上生活を経験した若者の話には、会場から



どよめきが起きました。日弁連会長からは、反貧困対策本部設置のとりくみ、青年が集まるイベント「グライダー」など各地の運動



前列左から 記虎さん、浦田さん、茂内さん
後左から 山田さん、加藤さん、池田さん
右端 堀野さん

参加者の声

*

国民健康保険料が高すぎて払えなくなっている人が大勢います。昨年10月に大阪社会保険推進協議会が行った門真国保実態調査の結果報告を聞ききました。国保は、サラリーマンが加入する協会けんぽや組合健保などの加入対象にならない人全てが加入します。今、国保加入者の約55%が無業者で、国保の加入者は公的医療保険の中で一番所得が低いにもかかわらず、最も高い保険料を課せられています。門真市の場合でも、所得200万円の四人世帯(40代夫婦と未成年の子2人、2009年度)で、国保料が約42万円。高額な保険料のため、門真市の国保料の滞納率は約7割となっています。実態調査の結果では、「国保料が高い」という声が多く、食費などを削って収めている、滞納が長引き無保険となっている、医療費負担の高さから受診を抑制している等の実態が明らかになったとのことでした。生活が圧迫されるような高い保険料、払えなければ制裁措置という対応はおかしいと思います。弱い立場の人は逆に何も言えない状態もある中、こういった調査で声を拾い上げていくことは大切だと思います。(次)